おんがく広場 第43号
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい
令和2年(2020) 5月20日(水)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

新型コロナウィスルス感染と合唱活動

京都大学グリークラブ OB 会／男声合唱団アンサンブル・レオーネ指揮者、混声合唱団ムジーク・フロイント団内指揮者
男声カルテット Four Way Stop メンバー
藤 田 正 浩

1. 個人の状況

私は京都大学グリークラブ OB 会と男声合唱団アンサンブル・レオーネの指揮者、混声合唱団ムジーク・フロイントの団内指揮者、男声カルテット Four Way Stop メンバーですが、みなさまと同様、夫々の団体で新型コロナウィルス感染の影響を受けています。

今年 5 月に米国のボストンとワシントン DC の 2 か所で開催を予定していたハーバード・京大グリーOB 会第 12 回合同演奏会が中止(延期)になりました。この米国演奏会のために、京大グリーOB 会委嘱作品の初演指揮をする予定でしたので、残念です。中止が決まって、海外渡航・宿泊・米国内移動などのキャンセル手続きを行いました。

私の指導するもう一つの男声合唱団アンサンブル・レオーネでは、5 月に予定していたミニコンサートを 8 月に延期したものの、見通しが立たず、結局、中止となりました。70 歳代、80 歳代の高齢者が多く、合唱練習を生活のアクセントにしている団員が多いため、数か月にわたって練習が中止になると、生活のリズムを乱して、健康面への影響がないか心配です。

ムジーク・フロイントでは、今年 9 月に松戸森のホール 21 で開催を予定していた大門コーラスファミリー第 4 回合同演奏会(大門康彦先生が指導する 9 団体の合同演奏会)が。中止(延期)に追い込まれました。また、来年 2 月には東京文会館小ホールで創立 20 周年演奏会を予定しているのですが、第二波、第三波感染拡大の可能性を考えると、不透明な状況を言わざるをえず、今後、対応を検討する予定です。

男声カルテット Four Way Stop の場合は、人数が 4 人と少ないこともあり、ネットを使って練習を続けていますが、ネットワーク環境等の違いから遅延時間が微妙に異なるため、難しいものがあります。

一方、これまでアマチュア合唱指揮者として、ステージ及びステージに向けての練習に追われて余裕がなかったのですが、3 月以降の Stay Home の時間を使って、これまでの音楽活動を振り返り、今後の音楽活動について考える時間を持つことができています。今しばらく時間がありそうなので、再開に向けてエネルギーを蓄積したいと考えているところです。

2. 合唱界への影響

5 月 18 日、NHK から、今年度の学校音楽コンクールの中止が発表されました。新型コロナウィルス感染の影響は、現在の練習中止、ステージ中止という目の前の影響だけでなく、今後、合唱団の在り方を根本的に見直さざるをえない可能性があります。それが合唱界にどう影響するのか、その立場々々で、直面する課題や大きさが違うでしょう。

合唱指導等を職業としている方々(下記 A)は、合唱団の練習やステージ演奏当の中止によって、直接的に金銭的な影響を受けています。また、すぐ影響はないかもしれませんが、中期的には、合唱活動の停滞、縮小でステージでの演奏機会が少なくなる可能性があり、その結果、新曲委嘱や楽譜販売の縮小により、合唱曲作曲家や楽譜出版・販売業者等(下記 B)が金銭的な影響を受ける可能性があります。

アマチュア(下記 D、E、F、G）について考えた場合、合唱練習は「三密」の典型と言われており、確かに運動部よりリスクが高いため、活動再開はかなり難しく、再開できたとしても制約が多くなる可能性があります。これは長期的にみると、そうでなくとも減少している若い世代、小中高生の合唱部員がさらに減少する可能性があり、顧問の先生方(下記 C)も苦慮されていると思います。

長期的には合唱界全体の縮小となり、大きな問題になりそうです。その他アマチュアの指導者、運営責任者などは高齢化が進んでおり、これを機に合唱活動をリタイヤする方が増える可能性もあります。

＜合唱関連者（分類例）＞

A. プロの合唱指導者、ピアノ伴奏者、ボイストレーナーなど
B. 合唱曲作曲家、合唱楽譜出版・販売業者など
C. 学校の合唱部顧問
D. 各合唱連盟の理事長・役員など
E. アマチュア合唱指導者
F. 合唱団の団長・役員など
G. 合唱団団員

3. 緊急対策（案）

今後しばらくの間、あるいはずっと、新型コロナウィスルスを含む感染症の状況に応じて、演奏会、練習、講習会他のイベ

ントが中止になったり、制約ができたり、これまでのように自由に活動ができなくなる可能性があります。残念ながら現時点でこれに対する根本的な対策のアイデアはありません。

とりあえず、一般合唱団の練習、ステージについて、当面の緊急対策(案)を考えてみました。ただ、100%感染防止することは難しいと思われますので、クラスターを発生させないことを目標にします。

1）練習時の対策

①練習で三密を避けるために

・座席の配置、間を空ける
・指揮者と合唱団員は向き合わないで同じ方向を向いて練習する
・指揮者はマスクをつけて、指示はマイクを使う(大声を出さない)
・合唱団員もマスクをつけて歌う(歌ってみると苦しいのですが…)
・部屋を一定時間ごと、例えば 30 分ごとに換気する
・各パート 1 人ずつ、パート毎やカルテット等の少人数主体の練習をする

②練習施設等の消毒(施設主催者と調整要)

・練習場の入り口で手を消毒する
・練習場内にある共用物、ドアノブ、机・椅子、ピアノ、ホワイトボード等を消毒する
・トイレ等の共用場所、椅子等の共用物の消毒

③その他

・発熱、咳等の症状がある場合は休むことを徹底する
・体温確認を練習参加の条件とする
・団員に新型コロナ感染者が発生した場合に備えて、名簿(連絡先)と連絡網を確認

2）演奏会時の対策

①受付と入場者への依頼

・体温チェック、受付に体温計(直接肌に触れないタイプの体温計)を設置
・手の消毒、受付にアルコール消毒液を設置
・マスク着用、予備マスクの設置
・入場待ち列の人の間隔をとる
・入場者が自分でチケットをもぎって半券を所定の場所に入れる
・プログラムは机上に置いて入場者が自分で取る
・花束等は受付しない

②スタッフ

・マスク着用　・手の消毒　・人数を必要最低限に絞る

③会場の対応（会場との調整要）

・座席の消毒
・座席の間隔をあける(着席不可シートを表示)
・トイレ等の共用場所の消毒
・開演前、幕間、休憩時間等にホール内を換気（ドア開放）

④会場リハーサル

・指揮者、合唱団の立ち位置(指揮者、合唱団とも声を出すことへの配慮)
・指揮者はマスクをして、指示はマイクを使う
・リハーサルはドアを開放して行う

⑤本番

・指揮者、合唱団の立ち位置(合唱団が声を出すことへの配慮、指揮者は原則声を出さない)

⑥控室

・座席の間隔をあける
・座席が少ない場合は、着替え等の時間を決めて交代制とする
・軽食をとる場合も座席の間隔をあける

⑦ロビー

・クロークや喫茶コーナーの中止
・ロビーにある座席の間隔をあける(着席不可のシートを表示)
・終演後のロビーを混雑させないため、ロビーコールやロビー挨拶を中止　＜了＞

ガラガラなのに「これで満席」

以前にも紹介した下の写真、実は 398 席の沖縄の宜野座村文化センターが行った、ソーシャルディスタンスを保つと実際どうなるかというシミュレーションです。

スタッフ 3 人が前後 2 メートルずつ間隔を空け、席を変えながら繰り返し撮影した結果、60 席(15%)で「満席」になったといいます。撮影した写真 20 枚を合成しました。ツイッター上で「思わず笑ってしまったが、ちょっと笑えない未来」と反響があったようですが、これじゃ採算が取れません(';')　（加藤良一）